

中学校における特別支援教育の視点に立った生徒理解[†]

柳 百合子*・司城紀代美**
茂木町立逆川中学校*
宇都宮大学大学院教育学研究科**

概要 中学校における生徒理解のために、特別支援教育の視点に立った中学生の実態把握をすることが重要と考えられる。実態把握の方法として、アンケート調査と生徒へのインタビューを行った。小学校の生活から中学校の生活に変化することで生まれる不安感は入学当初は少ないように見えるが、潜在化された不安感があると考えられる。これらの潜在化された不安感が後になって意識化されてきたり、中学校生活を続ける中で当初抱いていた中学校生活像とのずれが徐々に大きくなったり、更には新しい予期していなかった困難を体験したりし、それらの積み重ねや複雑な絡まり合いが徐々にストレスとなり、中学校生活が慣れたと思われる頃に不適応を起こす一因となると考えられ、その支援を考えていくことが必要と思われる。

キーワード：アンケート調査 インタビュー調査 中学生の不安 特別支援教育の視点

I 目的

中学校に入学するという事は、10代初期の子どもたちにとって、期待と不安に満ちた一大イベントと言える。小学校の生活パターンとは異なる点もあり、それらをどのように捉え、生活しているのかを特別支援教育の視点を取り入れたアンケートを実施することで明らかにしたい。

2 調査内容

アンケート項目は図1のとおりで、4件法により回答を得た(大問2-10は除く)。大問1について、入学当初のことを振り返って答えてもらった。大問2については、各学年とも、新しい学年になって幾分慣れたと思われる現在の様子を答えてもらった。

II 方法

1 アンケート協力者

公立中学校生徒1年生から3年生に協力を依頼し、全部で56名から回答を得られた。また、アンケート集計後に筆者が気になると思った生徒についてインタビューを実施した。インタビューを通して、質問項目からは得られなかったことを明らかにすることを目的としている。

3 実施期間

アンケートは2014年5月1日～15日、インタビューは2014年6月7日～16日に実施した。

III 結果と考察

アンケートを集計した結果(表1)とインタビューの内容を合わせて考察をした。

1 大問1について

通学については、中学校に入学と同時に自転車通学、徒歩通学になったことは、「少し大変だった」「大変だった」と不安感をもつ生徒が、1年生では半数、2年生では3分の1弱、3年生では4割の生徒にみられた。この項目について、具体的にどんなことが大変なのかをインタビューしたところ、通学距離が長い、重い荷物を荷台につけて慣れない道を慣れない自転車で通うことは大変、下校班の先輩たちのスピードについて行くのが大変、と答える生徒が大半

[†] Yuriko Yanagi*, Kiyomi SHIJO** TITLE
Students Understanding in Junior High School
from the View of the Special Needs Education
Keywords :questionnaire survey, interview,
junior high school student's anxiety, from the
view of the special needs education

* Sakagawa Junior High School

** Graduate School of Education, Utsunomiya
University
(連絡先 : shijol@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

だった。また、このインタビューの回答についてはどの学年も差異が無かった。

中学校から本格的に始まる教科担任制については、3年生の4人に一人が不安を感じていたと振り返っているが、1、2年生は不安をもった生徒は1割にも満たない。

また、中学校から始まる定期テストについては、1年生が5人に一人の割合で、2、3年生は約半数の生徒が不安感をもってたと答えている。また、1年生よりも、2、3年生が不安感をもったと振り返る生徒が多かった。不安についての具体的な内容をインタビューすると、「勉強の仕方が分からなかった」「範囲の中で、どこが出題されるのか見当がつかなかった」などが挙げられた。

小学校の45分授業から50分授業に変わることについては、2、3年生で4分の1程度の生徒が不安感をもったと振り返っているが、1年生は不安を感じた生徒は1割にも満たなかった。

中学校から着用になった制服については、2、3年生で4分の1程度の生徒が不安感をもったと振り返っているが、1年生は不安を感じた生徒は1割にも満たなかった。

全体的に、1年生は、当初筆者が予想したよりも、中学校入学についての不安感は少なかった。これは、第一に、入学前に行われる「中学校入学説明会」で、小学校担任教師と保護者引率の下、中学校の授業を参観したり、英語などの模擬授業に参加したり、部活動を見学したりする活動を経験し、入学前から心の準備をしてきたからだと思われる。第二に、小学校卒業期に、小学校の担任教師や保護者、きょうだいなどの周囲の人から、中学校生活について様々な情報やアドバイスを貰い、各自が中学校生活はどのようなものかをイメージできていること、第三に、それらの経験とイメージで作あげた中学校の生活像が、実際の中学校生活とそれほど違いがなかった、ギャップを感じなかったということで、入学時の不安は少なかったと考えられる。一方、2、3年生については、小学校卒業期には1年生と同じような経験を積んで入学し、最小限の不安感もちながら中学校生活をスタートさせたと思われるが、1年間または2年間、実際の中学校生活を経験した後入学時期を振り返ると、「そういえば入学した頃は大変だった」と入学当初は自覚していなかった不安感（潜在化された不安感）を意識する傾向があると思われる。

このことから、小学校の生活から中学校の生活に変化することで生まれる不安感は入学当初は少ないように見えるが、潜在化された不安感があると考えられる。生徒の中には、これらの潜在化された不安感が後になって意識化されてきたり、中学校生活を続ける中で当初抱いていた中学校生活像とのずれが徐々に大きくなったり、更には新しい予期していなかった困難を体験したりし、それらの積み重ねや複雑な絡まり合いが徐々にストレスとなり、中学校生活に慣れたと思われる頃に不適応を起こす一因となるのではないだろうか。

発達障害の生徒や教室で支援を要するとされる生徒は、「慣れていない環境が苦手」、「先の見通しが立てられない」と言われている。中学校入学はそれらの困難さをもつ生徒たちにとってインパクトのある出来事であり、迎える中学校側も細心の注意を払い丁寧に支援をしており、功を奏している。これからは、中学校生活に慣れた頃から抱く困難さや不安感を明らかにすることと、それに必要な支援について検討していくことが重要な課題と考えられる。

2. 大問2について

学級担任が変わることについては、1、2年生では不安をもつ生徒が少なかった。3年生で4人に一人が不安感をもっている。これは、回答した生徒の中に中学校入学後、学年が上がる度に学級担任が変わったことを経験している生徒が多数いたため、そのことが数値に影響していると思われる。1年生については、中学校入学とともに学級担任が変わることは自明の理であることから、不安感を持つ生徒が少ないと思われる。2年生については、進級とともに学級担任が変わらなかった生徒が多数いたため、全員が不安感はないと答えたと思われる。

授業の準備物については、2年生で5人に一人の割合で不安感を持つ生徒がいた。小学校と比較すると中学校の授業に必要な準備物が増えたことと、それらを教科ごとに的確に把握し忘れ物がないように準備をすることに負担感をもっている生徒がいると考えられる。

家庭学習については、2年生の4分の1程度の生徒が「あまり意欲的でない」「意欲がない」と解答した。これは、後日確認すると、1、3年生は「宿題」を教科で出される文字通りの宿題、「家庭学習」を教科で出される宿題以外の自分で計画を立てて自由に行う学習のことと捉えていたが、2年生は「宿

題」を教科で出される宿題と学級担任から出されている自分で計画を立てて行う学習と捉えており、「宿題」と「家庭学習」の捉え方に学年によって違いがあったことが分かった。2年生の「あまり意欲的でない」と答えた生徒にインタビューをしたところ、教科で出された宿題と学級担任から出されている自分で計画を立てて行う学習はやるが、それ以上の学習をする気にはなれないので、「あまり意欲がない」と答えたと言っていた。これにより、家庭学習に対する意欲は、どの学年も低くないことが分かった。

中学校生活では、制服で過ごす場面と運動着で過ごす場面がある。アンケート協力者は、全員が部活動の朝練に参加していた。どの生徒も、登校時はジャージで登校し、朝練終了後に各教室に戻って制服に着替えてから朝の活動を行うことになっている。また、午前中に運動着になる授業があった場合は、その時間から運動着のまま下校する、午前中に運動着になる授業がない場合は、昼休みに運動着に着替え、その後は運動着で過ごし運動着で下校するというルールがある。これについて、「少し大変だ」「大変だ」と答えた生徒にインタビューしたところ、衣服を脱ぐ、たたむ、人目を気にするなど、着替える行為そのものに大変さを感じてはいないものの、「いちいち着替えるのは面倒くさい」というのが大半であった。そこで、どんな場面で大変だと思うのか具体的に述べて欲しいという内容でインタビューすると、「前の授業が時間通りに終わらないと、着替える時間が少なくなってしまう」という回答が多かった。「前の教科が時間通りに終わらない」、「着替える時間が少ない」、「遅れると次の教科担任に注意される」という悪循環が生徒たちの苛立ちになり、「少し大変だ」「大変だ」という回答につながったと考えられる。この悪循環を絶ち切るためには教師の側が時間を守ることが必要である。教師が時間を守ることによって生徒たちの気持ちを安定した状態に保つことができる。発達障害をもつ生徒や支援を要する生徒は、見通しを持ってないことに関するストレスに弱い傾向にあるので、1日のスムーズな時間の流れを作り出すことが支援のベースになると考えられる。

最後の項目で、運動着に着替えるタイミングでは、2、3年生において「友達の行動をみればわかる」と答えた生徒がそれぞれ4人に1人いた。これについて、どのような場面で友達の行動を見て着替えるのかをインタビューしたところ、上述したルー

ルに則らない場面で着替えることが起きたときに、どのタイミングで着替えるのかを自分で判断するのではなく、友達の判断を参考にしているという回答が多かった。また、このような回答をする生徒は、発達障害をもつ生徒や支援を要する生徒たちに限ったことではなかった。そのことから、次のようなことが言えると思う。生徒たちは「着替える」という行為の他に「教科の係活動」、「委員会活動」、「学級の係活動」、給水やトイレの利用、教具の準備等個人の活動など、多くの活動を休み時間を使って臨機応変に行っている。その中で、自然と役割分担をしており、着替えるタイミングを見極めて行動するもの、その策に乗るものが出てきていると考えられる。障害の有無にかかわらず、学級の中ではそれぞれが一人で行動するのではなく、円滑な生活を作り出す手段として、仲間との関わりを通して仲間の行動に追従することがしばしば行われているのかもしれない。この相互作用が臨機応変を生み出す一助になっているものと思われる。

IV 今後の課題

今後の課題として挙げられることは、アンケート調査とインタビューから明らかになった、中学校生活に慣れてきた頃から抱く困難や不安感を明らかにすることとその支援を考案することである。継続的に生徒の不安に目を向け、必要な支援について考えていきたい。また、特別支援教育の視点で生徒を理解することはどの生徒にとっても有効なものではないかと思われる。生徒理解に特別支援教育の視点をより一層役立てていきたい。



逆川中学校 全学年の皆さんへ
アンケートに協力してください。
全項目を答えてください。最も当てはまるところに○をつけてください。

年 組 番 氏 名 _____

1 中学校に入学したばかりの頃のことについて答えてください。(2、3年生は入学した頃のことを思い出して答えてくださいね。)

質問	回答			
1 バス通学から自転車または徒歩通学になった。	問題ない	あまり問題ない	すこし大変だ	大変だ
2 教科担任制になった。	楽しみ	すこし楽しみ	すこし心配だ	心配だ
3 定期テストがある。実力テストがある。	問題ない	あまり問題ない	すこし不安だ	不安だ
4 45分授業が50分授業になった。	問題ない	あまり問題ない	すこし大変だ	大変だ
5 制服を着用することになった。	わくわくする	すこしわくわくする	すこし嫌いだ	嫌いだ

2 現在感じていることを答えてください。

(1年生は、入学してから現在までの様子、2年生、3年生は道級してから現在までの様子を答えてね)

1 担任の先生が替わる。	楽しみ	すこし楽しみ	すこし心配だ	心配だ
2 生徒会活動に意欲的に参加する。	楽しみ	すこし楽しみ	すこし心配だ	心配だ
3 移動教室が多い。(教室以外の授業が多い。)	問題ない	あまり問題ない	すこし大変だ	大変だ
4 教科書や問題集など、授業の準備をするものが多い。	問題ない	あまり問題ない	すこし大変だ	大変だ
5 先輩や後輩という立場がはっきりしている。	問題ない	あまり問題ない	すこし大変だ	大変だ
6 宿題以外の家庭学習をする。	意欲的だ	すこし意欲的だ	あまり意欲がない	意欲がない
7 1日に何回か運動着と制服に着替えることがある。	問題ない	あまり問題ない	すこし大変だ	大変だ
8 部活動に参加する。	意欲的だ	すこし意欲的だ	あまり意欲がない	意欲がない
9 自分の教室が変わったこと。	問題ない	あまり問題ない	すこし不安だ	不安だ
10 運動着と制服に着替えるタイミングが分かる。	自分で分かる	友達の見れば分かる	友達の見ても分からない	

図1 アンケート用紙

表1 「中学校生活について」の結果：否定的な回答をした生徒の割合(%)

	大問	小問	4又は3と答えた生徒の割合			
			1年生	2年生	3年生	全員
通学	1	1	50.0	28.6	40.0	37.5
教科担任制		2	7.1	4.8	25.0	12.5
定期テスト		3	21.4	52.4	50.0	42.9
50分授業		4	7.1	28.6	20.0	19.6
制服		5	7.1	23.8	25.0	19.6
担任	2	1	7.1	0.0	25.0	10.7
生徒会		2	7.1	14.3	10.0	10.7
移動教室		3	7.1	14.3	10.0	10.7
授業準備		4	7.1	19.0	10.0	12.5
先輩後輩		5	14.3	0.0	5.0	5.4
家庭学習		6	7.1	28.6	15.0	17.9
着替え		7	0.0	14.3	20.0	12.5
部活動		8	0.0	14.3	0.0	5.4
教室の変化		9	0.0	0.0	0.0	0.0
着替えのタイミング		10	7.1	23.8	25.0	19.6

注: アンケート用紙回答欄の選択肢を左から1, 2, 3, 4とし、3, 4を否定的な回答としてカウントした。